

## 特集

# 高校生たちの 熱い挑戦

高知県立 幡多農業高等学校

## 町のシンボル、入野松原

幡多郡黒潮町入野にある入野海岸は、浮津海岸から蛸瀬川河口にかけて広がり、全長約4km、幅約200メートルにわたって数万本のクロマツが立ち並んでいます。この松林は「入野松原」と呼ばれ、地域の憩いの場として親しまれるとともに、Tシャツアート展が開催される観光の中心地でもあります。砂浜と一体となったこの松原は、黒潮町にとって欠かせない存在です。さらに、防風保安林として周辺の住宅を塩害から守る役割も果たしています。

しかし近年、松くい虫の被害が深刻化し、茶色く枯れたクロマツが目立つようになってきました。被害に遭ったクロマツは回復が難しく、伐採せざるを得ない状況です。

## 地域の自然を救え！

このままでは松林が失われてしまう！その危機感から、約4年前、幡多農業高等学校グリーン環境科では、地域のシンボルである美しい松並木の保全活動を開始しました。

町有林である入野松原の一部を町から借り受け、3年生7名が現地調査や清掃活動を実施しています。活動を始めた当初は、「松原を守るって、一体何をすればいいのだろう？」と手探りだった生徒たちも、実践を重ねることで確かな手応えを感じるようになりました。

この活動を通じて、彼らの自然を大切に思う気持ちはより深まり、「自分たちが育てた木が未

来へ続くと思うと、楽しみでならない」「将来は環境保護に関わる仕事に就きたい」「就職や進学で県外に出ても、また戻ってきたい」と、それぞれの想いを語ります。

矢部裕巳先生は「次代にこの松原の美しい風景を引き継ぐためには、若い力が欠かせません。また、このような活動を通じて、自分たちの町を誇りに思ってくれたら嬉しいですね」と、目を細めます。

## 希望の種をまく

生徒たちは活動を通じて、「自分たちの未来を自分たちで守る」という意識を育み、環境問題への関心を高めています。「この松原が50年後も元気でいてほしい。そのために、今できることを頑張りたい」と、ある生徒は語ります。入野松原で採取した松ぼっくりの種から苗木を育成し、彼らの手で植えられた苗木が未来の森を育み、その森は次の世代へと受け継がれていきます。

ここには、若い力が育む緑の未来があります。高校生たちの挑戦は、単なる環境保護活動ではなく、希望の物語そのものです。彼らの情熱が森に新たな息吹を吹き込み、より豊かな未来へとつながっていきます。

あなたも次世代の森を育てる一員になりませんか？

入野松原の活動 通年実施



4月に植えた種から出たばかりの芽。



海からの風や波から町を守る入野松原。



そのままにしておくと、害虫が発生して病気の原因になる落ち葉を掃きだす作業がスタート！



## 特集 高校生たちの熱い挑戦

大事に使ってね。



2024年6月。間伐された地域の木材を利用してつくったパズルを竹島保育所と八束保育所に寄贈。



温かく見守る  
矢部先生

約2,600本がやむなく伐採された6年ほど前に比べ、少しずつ美しい松原の姿が再生へ向かっています。まだまだ先は長いですが、このような活動を通して地域に関わりつづけることが、生徒たちの心に地元愛を育んでいくのだと信じています。



喜んでもらえる  
といいな。

2025年10月開催・四万十ウルトラマラソンの参加賞となるコースターを製作中。

高知県立幡多農業高等学校



四万十市古津賀3711  
TEL:0880-34-2166  
<https://sites.google.com/g.kochinet.ed.jp/hatanogyo-h>



Instagram QR

この日の取材の様子はこちらから  
もりりんチャンネル



YouTube QR